

ブルックリンの桜

塚田 實

桜の開花状況が毎日メディアで報道されている。今年は例年よりかなり早く、東京は三月二十二日満開を迎えた。

アメリカでもあちこちで桜祭りがある。何と言っても一番有名なのは、ワシントンの桜だろう。一九一二年に当時の東京市長尾崎行雄がソメイヨシノを寄贈し、今やポトマック川畔、特にタイダルベース（入江）の周囲には、多くの桜が植えられ満開の頃は壮観だ。毎年三月末から四月にかけて、桜祭りを盛大に祝っている。

ブルックリン植物園の桜も素晴らしい。ブルックリンはニューヨーク市五行政区の一つで、イーストリバーを挟んでマンハッタン島の対岸にある。かつては荒れて危険な街として、日本人駐在員は近づくなとよく言われてきた。しかし、近年再開発が進み、清潔でクールな人気エリアに変容した。植物園は一九一〇年創立で、一九一五年には公開庭園では全米初の日本庭園が完成、一九二一年には桜が植えられた。ここでも毎年四月末ごろ桜祭りが開催される。

旅行中の五年前四月末、マンハッタンから地下鉄に乗って植物園を訪れた。チケット売場にはすでに長い行列ができていて、ゲートをくぐると、多くの人がカフェでサンドイッチとビールを買っている。桜の下でのピクニックを楽しむようだ。園内には四十二種約二百二十本の桜が植えられており、チェリーエスプラネード（桜の散歩道）もある。ソメイヨシノに続き、八重桜や枝垂桜が一斉に咲き誇る。この時期シャクヤク、ツツジ、フジ、チューリップなども同時に咲き、園内は一層華やかになる。

植物園の後は、隣にあるブルックリン美術館を訪れた。メトロポリタン美術館に次いで全米第二の規模を誇るが、こちらはピジターが少なく静かな雰囲気作品を堪能できた。帰りは水上フェリーに乗り、イーストリバーの爽やかな風を浴びながらブルックリンを後にした。植物園訪問は思い出に残る一日だった。

桜と桜祭りがいつまでも日米友好のシンボルであってほしい。